

柏で生まれるすばらしい伝統工芸のいくつかを紹介... 市役所第2庁舎1階ロビーにも展示してあります。

木釘

木釘は、豊四季の開拓者の副業として、昭和30年ごろまで豊四季の特産品でした...



琴

江戸時代中期に考え出された山田流の技法で琴作りを続けている、全国でも数少ない職人です...



昨年亡くなった今村靖彦さん作のものは木更津市の上総博物館でも保管されています...

理美容ばさみ

理美容ばさみを手作業で作っている職人は、全国でもほとんどいなくなっています...



下総玩具

松本節太郎さんが創設した「下総玩具」。戦災で昭和20年に柏に移住してきてから、柏の土で手びねりの人形を作ったのが始まりです...



ここで見られます！～船戸会館



交通 柏駅西口から、野田市駅行きまたは柏市立高校行きバスで「船戸木戸」下車、徒歩8分



船戸のおびしや

「ぶしや」→「おびしや」?

おびしやとは、関東地方東部で行われる春の農村行事で、もとは歩射(ぶしや)の神事で、弓的を射て、その年の豊凶を占う、いわば五穀豊じょう祈願の行事...

神話をモデルに

船戸天満宮の祭礼で、毎年1月20日に、医王寺に場所を借りて酒食の膳が用意され、まず「三助踊り」から始まります...

そして今...

現在は、場所を船戸会館(別掲地図参照)に移し、日にちも1月20日の直前の日曜日に変わって、行われています。

浦安の舞

国家の安泰を祈って

柏だけに伝わっているというわけではありませんが、毎年元旦に、増尾の廣幡八幡宮で行われます...

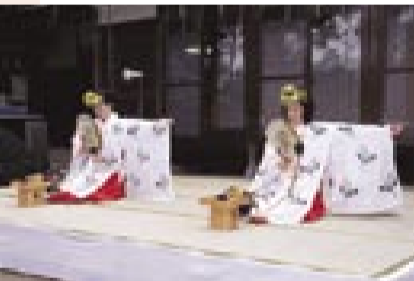
見た目は簡単そうですが...

本来は4人の巫女さんによる舞ですが、廣幡八幡宮では2人で舞い、昭和38年から奉納されています...

ここで見られます！～廣幡八幡宮



交通 東武野田線増尾駅東口から、タクシ-5分



冬

夏



八朔相撲

8月1日は歌だつた

徳川八代将軍吉宗の時代から富勢地区に伝わる八朔(はっさく)相撲。五穀豊じょうを願うとともに、働く農民たちの慰安を兼ねて...

伝統はよみがえる

一度は農業から若者が離れていくとともにさびれ、昭和36年を最後に途絶えてしまいました。しかし、地域の協力で平成7年から、あけぼの山農業公園に場所を移して実に34年を経て復活...

ここで見られます！～西光院



交通 柏駅西口から、松ヶ崎循環バスで「三周」下車、徒歩2分

雨を呼ぶ竜

篠籠田の西光院で行われる夏の行事で、江戸時代、徳川五代将軍綱吉のころに始まったといわれます...

いろいろな動物が登場

獅子、ひよっこ、さる、きつね、花笠、金棒びき、はやし方で構成されます。毎年8月16日、境内に竹を立て、しめ縄を張った中で行われます...

今年の予定

とき 8月16日(明)午後4時ごろから
ところ 西光院(篠籠田1214。左上の地図参照)

体験コーナー

三匹獅子舞はお盆のさなかにいう雨乞いの行事。ちょうど練習真っ最中の、地元の保存会の皆さんを訪ねてみました...



「本番はお面をかぶっているから、息ができなくてもっと疲れるよ」と先輩から厳しい一言も。猛暑の中を舞うのも大変なことですが、20数曲以上を吹き続ける笛方の苦勞も並大抵ではありません...

大室の盆綱

綱引きで占い

夏の夜、大室地区で行われる行事に盆綱があります。江戸時代、徳川は五代将軍綱吉の元禄12年7月13日、若者たちが青ガヤなどを刈り集めて太い綱をつくり...

決して休まず、ただ1度だけ...

近年では、8月15日と定められ、戦時中も、大水害の年も休みなく行われてきました。ただ1度、昭和20年、敗戦の玉音放送を聞いた時は、よりあがったばかりの綱を真二つに切って中止しました...

そして幻に

大室ふるさとセンター前の道路で平成9年まで行われていましたが、残念ながら平成10年に、会員不足と綱の材料の入手困難を理由に休止され、以来、現在まで行われていません。



伝えていくことが大切～「逆井囃子(ばやし)」



逆井囃子保存会代表 日暮 一雄さん

各地方に伝承されてきた民俗文化の祭りばやし。逆井に伝わるおはやしを守っていくと活動されている保存会のかたにお話を伺いました。

おはやしは、室町時代の京都に始まり、関東一円には江戸時代ぐらいに伝わったと言われています。保存会で現在も使用しているかねの一つに、「文政十一年亥年」と記されたものがあり、逆井囃子にも160年以上の歴史があることを物語っています。

大太鼓1人、小太鼓2人、横笛1人、かね1人で構成しますが、小太鼓2人が同じリズムを打つのではなく、「先ぶち」「後ぶち」とに分かれ、違う

タイミングでお互いのリズムの合間に打っていくのが逆井囃子の特徴です。転がるような、耳に心地いいおはやしで、毎年7月15日に行う、逆井の富士浅間(せんげん)神社のお祭りで披露します...

決まった楽譜がなく、実際の演奏を見聞きして、体で覚えこんで伝えられてきたので、「テンツクテン」「ヒヤラトロヒャー」のような、太鼓や笛を覚える言葉しか残っていません。そのため、強弱や調子などを覚えるのが大変難しく、昔は一家から1人ずつを集めて練習したりもしましたが、最初は100人ほどいた人が、最後には3人になってしまったこともあります...



逆井中では、逆井囃子保存会の人たちを講師に、授業の中でおはやしに取り組み、昨年度、ほのぼのプラザますおで行われた「あいあいまつり」などで成果を発表しました

